

ともしび

今年の報恩講に思う



井上直之
(釋直道)

先月、宗願寺がある古河市では、大雨による避難勧告が出され、多くの方が避難所で過ごしていた、と伺っております。

そして、機嫌が悪いまま家に着き、テレビをつけた時です。映っていたのは常総の被害の映像でした。

あの日は家族で、イトーヨーカドーに一時避難をしております。設置されていたテレビのニュースで、常総市の甚大な被害を目の当たりにしました。

その時ハッと気付きました。当たり前前に生きていたかと思いついて、いたことを反省していた私はどこに行つたのやら……と。結局、私は自分のことしか考えていない自己中心的な存在でした。

その時、今日明日にでも、いつ病気や事故で命失つてもおかしくない我が身でありながら、私は自分自身や家族の命があることを当たり前前と思いついていたのではなにか、と痛感させられました。

親鸞聖人はご自身も含め、人間は煩惱具足(ぼんのうぐそく)、欲望まみれで、虚仮不実(こけふじつ)うそ、いつわりだらけの真実がない存在、と仰いました。しかしそんな私たちだからこそ、阿彌陀如来の慈悲に救われていくのだよ、というみ教を残してくださいました。

機械に洗車してもらっている最中、車内には私の服が、なぜか濡れているのです。後を向くと後部座席の窓が開いていました。車内はびしょ濡れ。それから家に帰るまで、自分のつまらないミスに苛々しっぱなしでした。

今年の法話カレンダーに「出あわねばならないただひとりの人がいる それは私自身」とあります。もしこの世に私自身のあるがままの心を写し出す鏡があったら……醜く写った自分自身に、私は

こんなに醜くない、この鏡はおかしい、と怒りだすかも知れません。自分は正しい、と思い込んでいる人たちが集まったら、必ず喧嘩になると言います。そんな人間同士争いのために、どれだけの人が犠牲になっていることでしょうか。

そういうことを考えると、お寺は迷いの中で生きている私たちが、温かく支え合って生きていける場所ではなくてはならないのだと思います。

住職として半人前の私は、まだまだ力不足で、みなさまにご迷惑をかけてしまうこともあろうかと思えます。それでも、御同朋・御同行(浄土真宗の仲間、の意味)の言葉を胸に、これからも精進させていきたいと思いますので、今後とも宗願寺をよろしくお願いいたします。

9月の総代世話人会で、ご本山からの伝統報告法要にともなう懇志依頼について、みなさまにご協力いただくことが決まりました。

正式には「宗門総合振興計画推進費・門徒懇志」です。みなさまのご支援、ご協力に感謝いたします。

五月に長女が誕生し、七月には市内の雷電町に引っ越してきました。イトーヨーカドーによく行くので、そこでたくさんのご門徒さんにお会いします。その度に、娘の彩弥(さや)を可愛がっていただき、とても感謝しています。

合掌

お知らせ

- 成道会法要とコンサート
12月6日(日) 午後2時
(正午よりバザーがあります)
- 修正会
1月1日(金) 午前10時
- 御正忌報恩講
門信徒会新年会
1月10日(日) 午前11時
- 立春拝賀式
仏教婦人会新年会
2月4日(木) 午前11時

住職に長女誕生

五月二十日(水)、住職夫妻の長女が誕生しました。

七月十六日(木)、台風模様の悪天候の中、仏壯・仏婦のみなさまに見守られつつ、無事に初参式を執り行うことができました。



井上彩弥(4ヶ月)

母乳のみでスクスク育ち、いつも笑顔のかわいい子です。みなさま、どうぞよろしくお願いいたします。

念仏申す日々



井上 妙澄

どこからかミカンの香りが漂ってくる季節となりました。長いこと療養生活を続け、みなさまにご心配をおかけいたしました。お使いができるようになりました。次々と友人が亡くなり、私も、九十歳まであと少しの老齢となり、敬老を務める側から敬老を受ける側となりました。

このいのちを、大切に生きて、このいのちあることの有難さに念仏申すことが日々の営みなのだ、しみじみ思うこの頃です。我を信じ(我とは阿彌陀さま) 我の名を呼ぶ者は摂取不捨(必ず助けずにはおれません)。

南無阿彌陀仏、繰り返し、南無阿彌陀仏 合掌



おおいなるものの中からひかれゆくわがあしもののおぼつかなしや

九條武子

足尾を訪ねて

七月二十四日(金)、茨城西組・実践運動推進現地学習会が開催されました。

大型バスに乗り、足尾町の専念寺、足尾銅山、佐野市郷土資料館等を巡り、それぞれの場所で学びを深めました。宗願寺からは、副住職を含め十一名が参加しました。明治期、富国強兵の国策を推進するための足尾銅山で、鉱毒事件が起こりました。渡良瀬川の汚染により、廃村となった谷中村の悲劇は、古河に住む私たちのよく知るところです。

民衆の苦しみを救うべく立ち上がった政治家・田中正造について、バスの中で「赤貧洗うがとき」というドキュメンタリー映画を見て学びました。



佐野市郷土資料館にて

銅山跡は観光できるように整備され、私たち一行はトロッコに乗り坑内に入りました。帰りは徒歩です。外の暑さを忘れるほど涼しい銅山の中で、興味深い様々なものを見ることができました。坑内での労働者の姿が印象的でした。

佐野市郷土資料館では、田中正造に関する資料を見たり、鉱毒事件について説明を受けたりして、充実の一日を過ごしました。

田中正造や鉱毒事件については、知っているつもりだったけれど、今日初めて知ることも多かった、と参加者のおひとり語られました。

報恩講コンサート

バスツアーのお知らせ

住職が指導させていただいている、築地本願寺・楽友会の報恩講コンサートを鑑賞するために、お寺から出発するバスを用意しました。

朝九時にお寺を出て、紅葉を楽しみ、途中でお昼をいただきます。築地本願寺に向かいます。参加希望者は、お寺にお電話ください。

十一月二十三日(月)
午前八時五十分 宗願寺集合
参加費 二千元

※足の不自由な方でも十分楽しめるよう、企画したいと思います。

「如月の華」

九條武子ものがたり



公演パンフレット(部分)

十月六日(火)、浅草公会堂にて上演された前進座のお芝居「如月の華・九條武子ものがたり」を、婦人会のメンバーを中心に、住職を含む十三名で鑑賞しました。

これは、本願寺第二十一代門主・明如上人の次女として生まれ、与謝野晶子・柳原白蓮とともに大正の三大女流歌人と謳われた九條武子夫人が、仏教婦人会本部長として、被災者救援、女子教育、女性の地位向上へと、四十二年の短い生涯をささげられた、かなしくも美しいものがたりである、とパンフレットにあります。

前住職・妙澄師が折に触れてお話しくださった九條武子の生涯について、より理解が深まったとの感想が聞かれました。

「思いがけず泣いてしまった」
「本願寺のお嬢さまなのに、ご苦労されたんですね」
「素敵な短歌をもっと入れた構成にして欲しかった」
「お弁当がおいしかった」

様々な感想に話は尽きませんでした。

バザーご協力のお願い

十二月六日の成道会バザーのために、不用品等を集めています。十一月末までに、お寺にお持ちください。当日、買物をしていただくのもありがたいご協力です。よろしく願いいたします。

花まつりの、食前最後の言葉がお兄ちゃんと一緒にとても上手な松井美咲ちゃん(六歳)です。幼稚園の年長さんの時に描いた絵が、世界児童画展・特選に入選しました。



キャベツに虫いたよ

編集後記



「いつも同じだけど……」と、母から原稿を渡され、ホッとしました。いつもの寺報をお届けいたします。母が体調を崩して一年近く、私の仕事が増え、自分では頑張っているつもりでも、至らないことが多かったように思います。

五月に彩弥ちゃんが生まれ、七月には引越越しと、とても慌ただしい日々でした。その準備のため、住職が幼い頃任んでいた家をリフォームしました。体調の悪い母を頼れず、その作業も大変でした。今では、ニコニコ笑顔の彩弥ちゃんにも時々会うことができ、嬉しい限りです。

五月末に、転んで元々悪かった右膝を痛めました。六月は何とか歩けたのに、七月にはそれも難しくなり、八月のお盆参りは椅子持参でした。整形外科と整体に通い、だいぶ良くなりましたが、まだ不自由です。

若い頃には理解できなかったお年寄りたちの身体の愚痴が心から、理解できるようになりました。いよいよ、一日一日を大切に生きなければなりません。合掌



発行・宗願寺門信徒会
編集責任者・井上由真 (由美子)
カット・大建弘子
(印刷所・阿部印刷)